

文部科学省教科調査官監修

2021年度版

「主体的・対話的で深い学び」を意識した

教科指導 ヒントとアイデア

6/7月号の内容

▶ 国語科

- 小一 じゅんじょをかながえて読もう
「思い出」ファイルをつくろう
- 小二 お話を読んで、しょうかいしよう
しつもんをしあって、くわしく考えよう

▶ 算数科

- 小一 のこりは いくつ、ちがいは いくつ
どちらが ながい
- 小二 100より大きい数をしらべよう
時計を生活に生かそう

▶ 生活科

- 小一 きれいにさいてね
なつがやってきた
- 小二 町ですてきを見つけよう
生きもの なかよし 大作せん

▶ 体育科

- 小一 アスレチックパークにいこう！
安全！楽しい！水遊び
- 小二 てつぼうランドでおさるのお話大ぼうけん
「ブクブク・プカプカランド」でレベルアップ！



※学習活動の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症に関わる各自治体の対応方針を踏まえるなど、子供の安全確保に十分配慮してください。

領域 C 読むこと

じゅんじよをかんがえて 読もう

教材名「くちばし」

光村図書 一年上

執筆 東京学芸大学附属小金井小学校教諭 大村幸子
 編集委員 文部科学省教科調査官 大塚健太郎
 東京学芸大学附属小金井小学校教諭 成家雅史

年間指導計画

4/5月	どうぞよろしく
6/7月	くちばし はなのみち
8/9月	ききたいな、ともだちのはなし やくそく
10/11月	しらせたいなみせたいな じどう車くらべ
12/1月	てがみでしらせよう ききたいな、ともだちのはなし
2/3月	ずうっと、ずっと、大すきだよ いいこといっぱい 一年生

1 単元で付けたい資質・能力

①身に付けたい資質・能力

「問い」と「答え」の関係を見付けながら、内容の大体を捉える力を身に付けさせます。そのなかで、文のなかにおける主語と述語との関係に気付くこと、文章のなかの重要な語や文を考えて選び出すことなども併せて指導します。

②言語活動とその特徴

本教材「くちばし」は、子供が初めて出合う説明的な文章です。この教材は、鳥のくちばしについて、問答形式で分かりやすく説明してあるので、子供たちは、クイズに答えるような楽しい気持ちで学習することができます。「問い」と「答え」の関係を捉えながら、くちばしの形態がえさを搾取することと関連しているという一年生なりの論理的思考を養うようにしましょう。「問い」と「答え」の関係を正確に読み取るためには、それぞれのくちばしについて、文章のなかで重要になる語や文を考えて選び出しながら内容理解を進める必要があります。一つ一つの絵と文章を結び付けて読ませたり、文型や文末を意識させたり、具体物を活用して実演したりするなどの手立てをとり、イメージと結び付けながら内容を正確に読み取らせるようにしましょう。

2 単元の展開（8時間扱い）

次時 主な学習活動

二	二	一
7・8	2～6	1
<p>⑧学習をふり返る。</p> <p>⑦一番興味をもったくちばしについて、わけとともに伝え合う。</p> <p>アイデア</p>	<p>④「おうむ」の事例を読む。</p> <p>⑤「はちどり」の事例を読む。</p> <p>⑥「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、二人組で音読する。</p> <p>③「きつつき」の事例を読む。</p> <p>②全文を読み、内容の大体を捉える。</p> <p>①本文と写真とを対応させながら、三種類の鳥のくちばしが取り上げられていることを確かめる。</p> <p>①学習の見通しをもつ。</p> <p>②全文を読み、内容の大体を捉える。</p> <p>③「きつつき」の事例を読む。</p> <p>④「おうむ」の事例を読む。</p> <p>⑤「はちどり」の事例を読む。</p> <p>⑥「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、二人組で音読する。</p> <p>⑦一番興味をもったくちばしについて、わけとともに伝え合う。</p> <p>⑧学習をふり返る。</p> <p>アイデア</p>	<p>教師の範読を聞き、内容の大体を知る。気付きを発表する。</p> <p>鳥やくちばしについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。</p> <p>①学習の見通しをもつ。</p>

単元末には、「いちばんおどろいたくちばしはどれか」を考えて、友達に伝える活動を行います。くちばしの形態とえさの搾取のしかたの関係についての読みを深めさせるとともに、説明文を読んだ驚きや面白さを学級全体で共有し、「もつと知りたい」「もつと読みたい」という思いにつなげていきましょう。

指導事項…(知識及び技能)(1)カ
 (思考力、判断力、表現力等)C(1)アウ 言語活動例 ア

アイデア1 子供の気付きや問いを大切に
主体的な学び

低学年の子供たちは、気付いたことを教師に伝えたいという思いをもっています。子供たちの言葉をつないで学習を進めるようにしましょう。

例えば、単元の導入では、教師の範読を聞いて気付いたことを発表させ、子供の言葉をつなぎながら、身に付けさせたい資質能力に注目させるようにします。

「これは」って、つながっているよと読みやすい

「そして」と説明を加えているよ

僕も、かわせみのくちばしについて説明したい

僕は、おつむのくちばしだって、すぐに分かったよ。先が丸くなっていたから

私は、はちどりのくちばしが面白いと思ったよ。ストローみたい

答えには、鳥の名前と顔のとり方が書いてあるよ。クイズみたいで面白いね

問いの文は、形の説明として、「でしよう」と聞いているよ

また、事例を読む学習においては、「問い」と「答え」の関係を捉えようとする姿を捉え、全体で共有するようにします。

このように、大事な言葉に注目しながら粘り強く読む姿を取り上げ、広げていくようにしましょう。

アイデア2 具体物を利用して対話的な学びを考えさせる

事例を読むときには、イメージと結び付けて捉えさせることが大切です。それぞれのイメージを出し合うときに、対話的な学びが生まれます。

例えば、はちどりのくちばしについて読むときには、くちばしに見立てたストローと、花に見立てたコップを用意し、ストローをさして、花の蜜を吸うという動作を実際にやらせてみます。その際に、長いストローと短いストローなど、何種類かのストローを用意しておく、いろいろな気付きが出され、話し合いが活発になります。

長いほうが、花の奥の蜜も吸えるね

ストローみたいな役割があるんだね

こうした話し合いによって、花の奥にある蜜を吸うために、はちどりのくちばしは長いのだという理解を深めることができるのです。

具体物や挿絵を活用して考えさせると、それぞれの気付きによる対話が活発になり、読みが豊かなものになります。

アイデア3 身に付いた資質・能力を自覚できるように
深い学び

「一番驚いたくちばしはどれか」と、感想をもたせることで、その子の読みを表象化することができます。感想を書かせる際には、なぜそのくちばしに興味をもったのか、わけを考えて書かせるようにしましょう。わけのなかに、本文を読み取った内容やこれまでの体験と結び付けて書いている子供がいたら、教師は、その姿を価値付けて、全体に広げようようにします。

わたしは、おつむのくちばしが、いちばん、すこいとおもいました。なぜかという、かたいくるみの、かさを、われるくらい、かたいということがわかったからです。

ほくは、はちどりのくちばしが、おもしろいとおもいました。水を、のむとき、ほくたちは、ストローをつかうけれど、はちどりは、はじめから、ストローみたいなくちばしをもっていることが、わかったからです。

〇〇さんは、おつむのくちばしについて、「かたいからをわるために」工夫されていることが読み取れていて、いいですね

△△くんは、はちどりのくちばしについて、ストローの実験と結び付けて考えていて、いいですね

このように教師が価値付けすると、読むときや感想をもつときにどのように考えればよいかということについて、子供がイメージしやすくなるでしょう。また、感想を共有する体験は、「友達の感想を聞いてみたい」「読んだことを友達に伝えたい」という思いにつながり、より深い学びへと誘うことができます。

領域 B 書くこと

「思い出し」ファイルをつくらう

教材名「こんなことがあったよ」

光村図書 一年上

執筆 東京学芸大学附属小金井小学校教諭 大村幸子
 編集委員 文部科学省教科調査官 大塚健太郎
 東京学芸大学附属小金井小学校教諭 成家雅史

年間指導計画

4/5月	どうぞよろしく はなのみち
6/7月	くちばし こんなことがあったよ
8/9月	ききたいな、ともだちのはなし やくそく
10/11月	しらせたいなみせたいな じどう車くらへ
12/1月	がみでしらせよう ききたいな、ともだちのはなし
2/3月	ずうっと、ずっと、大すきだよ いいこといっぱい 一年生

1 単元で付けたい資質・能力

①身に付けたい資質・能力

本単元では、楽しかった自分の体験を思い出し、「したこと」や「思ったこと」を書く力を身に付けさせます。相手に読んでもらうことを意識させ、「したこと」「思ったこと」を書く力とともに、長音や拗音などの表記や助詞を正しく使う力も身に付けさせるようにしましょう。

②言語活動とその特徴

平仮名の読み書きを学び、文を読むことや書くことに興味をもち始める時期です。自分の考えや思いを文にしたいという一年生の思いに寄り添いながら学習を進めるようにしましょう。この時期の文章量の目安は三文程度ですが、子供の実態に応じて柔軟に対応することが大切です。「したこと」と「思ったこと」を基本としながら、詳しく書ける子供には「話したこと」や「聞いたこと」なども書き足すように促すとよいでしょう。また、作品を友達に読んでもらうことで、書いて伝えることの喜びを味わわせることもできます。身近な出来事を文や文章にする喜びを味わう学習を通して、意欲的に書く子供の育成をめざしましょう。

また、発展的な活動として、夏休みの絵日記の課題につなげたり、「思い出ファイル」としてまとめたりするなど、継続して取り組ませること

もできるでしょう。

指導事項…(知識及び技能) (1)ウ
 (思考力、判断力、表現力等) B (1)ウ 言語活動例 イ

2 単元の展開(6時間扱い)

次時 主な学習活動

三	二	一
6	3~5	1・2
⑥書いた作品を友達と読み合い、感想を伝え合う。	③学校や家庭での楽しかったことのなかから、知らせたい話題を決める。 ④「したこと」や「思ったこと」を思い出し、書く事柄を決める。	①楽しかったことを思い出して発表し合い、「したことを書いて知らせる」という学習の見通しをもつ。 ②教科書や教師の作品例を読み、どんなことを書けばよいか、誰に読んでもらいたいかを考える。
▼アイデア3	▼アイデア2	▼アイデア1



アイディア1 言語活動を明確にし、学びを意識させる

主体的な学び

この時期の書くことの学習の意義の一つは、文をつくる喜びを感じることで、この喜びを原動力に意欲的に書く力を高めていけるようにしたいものです。そのためには、単元の言語活動を明確にし、自分の学びを意識させることが大切です。例えば、次のように設定します。

身近な人に、学校や家で、楽しかったことを知ってもらうために、絵日記を書こう。

身近な人に伝える文章を書きたいな。



ここでポイントとなるのが、どのように書くかという点を子供自身に気付かせることです。はじめから文の「型」を教えるのではなく、教科書や教師の作品例から気付かせるようにしましょう。子供の気付きは、いつでも確認できるように掲示しておき、学びを見通したり振り返ったりする際に活用するとよいでしょう。こうした学びの蓄積が、書くことへの自信につながります。



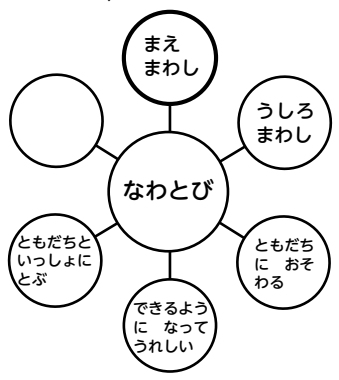
アイディア2 思考ツールを活用した対話を取り入れる

対話的な学び

一年生の子供は、何について書くか迷ったり、詳しく思い出せなかったりすることがあります。そこで、話題設定や取材の過程において、ペアでの話し合い活動を取り入れます。友達と質問し合うことによって、書くことが明確になったり詳しく思い出したりすることが出来ます。

その際には、次のような思考ツールを活用すると、対話による考えの広がりを見える化することが出来ます。真ん中に書こうと思っていることの中心を書かせます。その周りに、そのときの詳しい出来事や様子、気持ちを、線でつないで書かせるようにします。

さらに、友達と話し合って、思い出したことを、青で書き加えさせるようにします。色を変えて書き込みをさせることで、友達と対話すると考えが広がるなどのよさに気付かせることが出来るでしょう。最後に、どのことを書くか決めさせ、赤で印を付けさせるようにすると、何を書くかが明確になります。



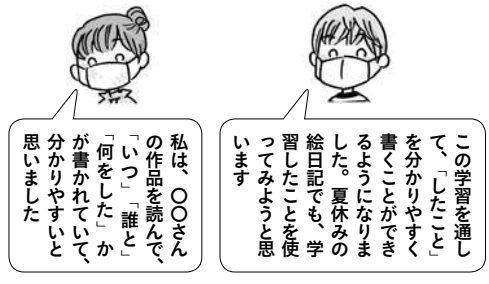
アイディア3 学びをふり返り、気付きを教室掲示にする

深い学び

単元の最後には、友達同士で作品を読み合い、よいところを伝え合います。このとき、付箋などに感想を書いて貼ると、後で書いた本人も読み返すことが出来ます。これにより、自分の作品のよさを実感するとともに、「したことを分かりやすく書くことができた」「思ったことを詳しく書くことができた」など、身に付けた資質・能力を自覚することが出来ます。こうした気付きをまとめて、教室に掲示しておくことで、次に書いてみたいと思ったときに手がかりとして有効に機能するでしょう。

次の書く活動につながるような感想を取り上げたり、面白そうな活動を提案したりすることもよいでしょう。

● したことを、かくときには、「いつ」「どこで」「なにを」「した」を、かくとわかりやすい。



のこりは いくつ、 ちがいは いくつ

執筆：東京都荒川区立第一日暮里小学校主幹教諭 石川大輔
編集委員：文部科学省教科調査官 笠井健一
東京都目黒区立八雲小学校校長 長谷 豊

年間指導計画

4/5月 いくつと いくつ
なんぼんめ
6/7月 のこりは いくつ、ちがいは いくつ
どちらが ながい
8/9月 10より おおきいかず
なんじ なんじはん
10/11月 たしざん
ひきざん
12/1月 いろいろな かたち
大きい かず
2/3月 ずを つかって かんがえよう
かたちづくり

本時のねらいと評価規準 (本時7/9時)

ねらい 求差の場合について、減法の意味を理解する。

評価規準 求差の場面を減法としてとらえ、ブロック操作や減法の式に表し、説明している。

もんだい

きいろい おりがみは、みどりの おりがみより なんまい おおいでしょうか。



(散らかった黄色の折り紙と緑の折り紙の絵を見せて自由につぶやかせる)

C：黄色の折り紙と緑の折り紙があるよ。

C：全部で何枚かな。

C：どちらが多いかな。

C：黄色い折り紙のほうが多そうだ。



T：黄色い折り紙は緑の折り紙より何枚多いでしょうか。

C：何枚多いのかな。

学習のねらい

きいろい おりがみは みどりの おりがみより なんまい
おおい かんがえ、しきに あらわそう。

見通し

- C：どんな式になるかな。たし算かな。ひき算かな。
T：黄色い折り紙と緑の折り紙の枚数を、ブロックを使って数えてみましょう。
C：きいろ  8まい
みどり  5まい
T：ブロックを動かして考えてみましょう。式を書いて考えてもいいですよ。

絵にブロックを置き、それを横一列に並べ、それぞれの個数を確認する。そして、ブロック操作を中心に考えるように指示する。また、考えられる子は、考え方を図や式で表してもよいことも伝える。

自力解決の様子

A つまずいている子

求差の場面を減法と捉えられず、並べたブロックを、どのように操作すればよいのか分からない子。

B 素朴に解いている子

求差の場面を減法と捉え、並べたブロックを操作し、差を求めている子。

C ねらい通りに解いている子

求差の場面を減法と捉え、並べたブロックを操作し、減法の式で差を求めている子。

学び合いの計画

A、B、Cのどの子供もブロックの操作を必ず行わせ、差を求めるための操作のしかたを交流させます。

その際、1対1対応させる操作を行わせ、対応

しないブロックの個数が答えになることに気付かせます。また、隣どうして自分のブロックの動かし方を説明し合い、それぞれの考え方の共有化も図ります。

ワークシート例



もんだい きいろい おりがみは、みどりの おりがみより なんまい おおいでしょうか。					この もんだいも ひきざんで もとめられますか。 あかい きんぎょは、くろい きんぎょより なんびき おおいでしょうか。												
どん な し き に なる かな？					どん な し き に なる かな？												
□	□	□	□	□	←	□	□	□	□	←	□	□					
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□					
し	き	8	-	5	=	3				だ	か	ら	、	6	-	4	の
こ	た	え	3	び	き					ひ	き	ざ	ん	で	、	こ	た
ど	ち	ら	が	い	く	つ	お	お	い	え	を	も	と	め	ら	れ	
か	も	ひ	き	ざ	ん	。				る	。						

全体発表とそれぞれの考えの関連付け

T : 黄色い折り紙は緑の折り紙より何枚多かったですか。

C1 : 黄色い折り紙が3枚多かったです。

T : 3の求め方をブロックで考えてみましょう。

C2 : 5枚は緑の折り紙と同じ数だから、

↑この3枚が多い。

C3 : 8枚から緑の折り紙と同じ5枚を取ると3枚残ります。だから黄色い折り紙が3枚多い。

8枚から5枚取ると3枚残る

T : このような求め方は、何算ですか。また、どんな式になりますか。

C4 : 「取る」から、ひき算と同じように見れないかな。

C5 : 8枚の黄色い折り紙から緑の紙と同じ数をひけばいいから、 $8 - 5 = 3$ というひき算になります。

C6 : 8枚から5枚取ると3枚残るから、 $8 - 5 = 3$ というひき算の式になります。

学習のまとめ

前時までの求残や求補と本時の求差が、場面は違っても、ブロックの動かし方（ブロックを取るということ）が同じであることから、求差の場合も減法を用いることができるとまとめる。



残りを求めるひき算と同じように、ブロックを取って残りのブロックの数を求めているので、「どちらがいくつ多いか」を求めるときも「ひき算」の式になるのですね。

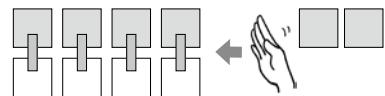
評価問題

この もんだいも ひきざんで もとめられますか。

あかい きんぎょは、くろい きんぎょより なんびき おおいでしょうか。



子供に期待する解答の具体例



だから、 $6 - 4$ の ひきざんで、こたえを もとめられる。

感想例

- どちらがいくつ多いかも、ひき算で求められることが分かりました。
- ブロックを使って考えたら、 $8 - 5$ でいいことが分かりました。

どちらが ながい

執筆：東京都目黒区立駒場小学校主任教諭 越後真紀
 編集委員：文部科学省教科調査官 笠井健一
 東京都目黒区立八雲小学校校長 長谷 豊

年間指導計画

- 4/5月 いくつと いくつ
なんばんめ
- 6/7月 のこりは いくつ、ちがいは いくつ
どちらが ながい
- 8/9月 10より おおきいかず
なんじ なんじはん
- 10/11月 たしざん
ひきざん
- 12/1月 いろいろな かたち
大きい かず
- 2/3月 ずを つかって かんがえよう
かたちづくり

本時のねらいと評価規準 (本時4/5時)

ねらい 身の回りにあるものの長さは、任意単位のいくつ分として捉えることで、数として表したり、比較したりできることを理解する。

評価規準 ものの長さを任意単位のいくつ分と数で表すと、どちらがどれだけ長いかを数で表すことができるというよさに気付く。

もんだい つくえの たてと よこは、どちらが ながいでしょうか。

- T：今日は机の縦と横の長さ比べです。あれっ！大変！紙テープがあとこれだけしかありません。困ったなあ。
- C：ひもとか、リボンとか、長いものがあれば同じように測れると思います。
- T：なるほど。「長いもの」だったら測れるので

すね。もし、短いものしかなかったらできませんか。

- C：短いものでも測れます。
- T：えっ、短くても測れるの。たとえば消しゴムとかでも大丈夫ですか。
- C：できます。

学習のねらい | みじかいものを つかって、ながさの くらべかたを かんがえよう。

- T：どうやって調べればいいですか。
- C：鉛筆でも消しゴムでも、それを並べて何個分で比べられると思います。
- C：手で何個分でも比べられると思います。大人の方が、長さを測るときに手で測っていました。
- T：なるほど。手でどうやって何個分と測るのですか。
(子供に実演してもらう)
- T：こうやって1、2、3...で表すのですね。例えば、

3個分と5個分だったらどちらが長いですか。

- C：5個分です。
- C：どれくらい長いかも分かります。
- T：どうして分かるんですか。
- C：5個分と3個分だから、 $5 - 3 = 2$ で、2個分長いです。
- T：すごい、どちらが長いだけでなく、どのくらい長いかも分かるのですね。では、みんなの目の前にある机の縦と横について調べてみましょう。

見通し

A 身の回りのものをかき集め、縦横に並べて調べる。

B 手で、親指と中指の幅いくつ分で調べる。(あた)

C 鉛筆、消しゴムなど同じものがいくつ分かて調べる。

自力解決の様子

(Aの考え)

いろいろな長さの鉛筆を並べて、鉛筆何本分として調べようとしている。



(Bの考え)

「あた」がいくつ分かて調べてようとしている。



(Cの考え)

同じものいくつ分かて調べてようとしている。



学び合いの計画

Aの考えは、もとの長さが一定でないので測り方としては間違いですが、鉛筆何本分か目に見えるように並べようとした思いは（BやCは測った軌跡が見えない）認め、Cの考えと比較して誤りに気付かせます。また、Bの考えは、なぜそれを思い付いたのかを問います。Bについては、身近な大人が測っているのを見たことがある子供もいると思われまふ。それをやってみようと思ったことをほめ、さらに、身体の部分の長さを使った昔の単位「あた」「つか」「ひろ」「寸」「尺」などを紹介し、実際に皆で使って測定してみましょう。また、身体の部分の長さを使った測り方が子供から出なかった場合は、教師

〈ワークシート例〉

つくえの たてと よこでは、 どちらが ながいでしょう。	2 むかしの たんいを つかってみよう。 「あた」 たて <input type="text"/> こぶん よこ <input type="text"/> こぶん しき <input type="text"/> こたえ <input type="text"/> が <input type="text"/> こぶん ながい。
1 みぢかな ものを つかってみよう。 つかった もの <input type="text"/> ながさ たて <input type="text"/> こぶん よこ <input type="text"/> こぶん どれだけ ながいかを もとめる しき <input type="text"/> こたえ <input type="text"/> が <input type="text"/> こぶん ながい。	「つか」 たて <input type="text"/> こぶん よこ <input type="text"/> こぶん しき <input type="text"/> こたえ <input type="text"/> が <input type="text"/> こぶん ながい。

のほうから紹介します。さらに、BやCの考えは数値化することによって長さが分かりやすく、どれくらい違うか表すこともできるという数値化のよさに気付かせまふ。

全体発表とそれぞれの考えの関連付け

A いろいろな長さの鉛筆を並べて たて 4こぶん よこ 5こぶんと すこし
B 手を使って たて 5こぶん よこ 7こぶん
C 同じ鉛筆いくつ分かで たて 4こぶんと すこし よこ 6こぶん

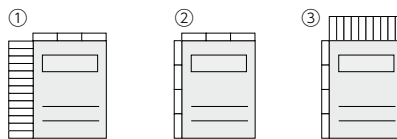
- T：3つの考えはどれも正しいでしょうか。
 C：Aは鉛筆何本分で比んでいるのはいいけれど、長さがバラバラなので同じもので比べたほうがよいと思います。
 C：BとCは、同じものが何個分か調べています。
 C：Bのやり方だと、手2個分、横のほうが長いです。
 C：Cのやり方だと、横のほうが1個分と少し長いです。
 C：BとCが使っているものは違うけれど、同じ考えだと思います。

学習のねらいに正対した学習のまとめ

- T：小さいものを、どちらが長いかを調べるにはどうすればよいですか。
 C：同じもののいくつ分で表すと、長さ比べができます。
 C：いくつ分かで比べると、長さを数で比べられて、どれだけ長いかが分かります。
 T：そうですね。長さを「～の長さ○こ分」で表すと、長さが数になってどれだけ長いかが分かりやすく、比べることもできるのでですね。
 C：みんなが同じもので測れば、もっと分かりやすいと思います。（*次時の課題とする。）

評価問題

- ① のーとの たてと よこの ながさをけしごむで はかっています。ただし はかりかたを しているものに ○を かきまふ。



- ② どちらが どれだけ ながいでしょうか。



が くりっぷ こぶん ながい。

感想



- 小さいものでも、同じもののいくつ分で、長さ比べができることが分かりました。
- いくつ分で比べると、どちらがどれだけ違うかが分かります。
- みんなが同じものを使えば、分かりやすいと思います。次の時間にやってみまふ。

きれいにさいてね

執筆：青森県十和田市立法奥小学校教諭 川原照美
 編集委員：前・文部科学省教科調査官 渋谷一典
 文部科学省教科調査官／愛知淑徳大学准教授 加藤 智
 青森県六ヶ所村教育委員会
 学務課指導グループマネージャー 木村 智

年間指導計画

- 4/5月 がっこうだいすきはるをさがそう
- 6/7月 **きれいにさいてね**
なつがやってきた
- 8/9月 いきものとなかよし
あきをさがそう
- 10/11月 あきのおもちゃをつくろう
むかしからつたわるあそびをたのしもう
- 12/1月 じぶんでできるよ
ふゆをたのしもう
- 2/3月 しん一年生に学校のことをつたえよう
もうすぐ二年生

期待する子供の姿

知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
自分で選んだ植物を継続的に栽培する活動を通して、成長や変化の特徴に気付くとともに、植物も生命をもっていることに気付く。	自分で選んだ植物を継続的に栽培する活動を通して、よりよく育つために世話のしかたを工夫したり、植物の成長を自分との関わりで捉え、表現したりすることができる。	自分で選んだ植物を継続的に栽培する活動を通して、植物に親しみを持ち、大切にしようとする。

単元の流れ（8時間）

学習の流れ

○種を選ぼう（2時間）

- ・何種類かの種の形を観察し、発表し合う。
- ・育てたい種を選ぶ。
- ・自分の種に名前を付ける。



アサガオの種は、黒くて小さいね。

○種をまこう（2時間）

- ・種をまくために必要なことを話し合う。
- ・保護者、職員、二年生から聞いて確かめる。
- ・種をまく。

お水をあげよう。



肥料もあげるといいんだって。



○お世話しよう（4時間＋常時活動）

- ・成長している自分の植物の様子を観察・記録する。
- ・自分の植物の成長や友達の植物との違いについて、紹介し合う。
- ・世話をしている困ったことや手立てを話し合う。
(朝や休み時間を使って様子を観察したり世話をしたりする)



芽はどのくらい出た？



評価規準等

- 知 種の形や大きさなどの特徴に気付いている。
- 思 種の形や大きさなどの特徴を意識しながら、育ててみたい植物を選んでいる。
- 知 植物には、それぞれに適した育て方や種のまき方があることに気付いている。
- 思 種をまいたことについて、気付いたことや思ったことを絵や言葉で表現している。
- 思 植物の成長の様子を継続して観察し、友達の植物とも比べながら、気付いたことを絵や言葉で表現している。
- 態 植物の特徴、変化や成長の様子に応じて世話をしようとしている。

※評価規準等の知＝知識・技能、思＝思考・判断・表現、態＝主体的に学習に取り組む態度の観点を示しています。

活動のポイント1 種との出会いを工夫して主体性を育てよう。

種との出会いの場を工夫してみましょう。例えば、数種類の種を用意し、観察する活動を設定します。子供たちは、さまざまな種の色や形の違いに気付き、思ったことをどんどん口にするはず。そこで「どんな芽が出るのかな」などの問いかけをすることで、種に対する関心が高まり、どんなふうにも成長していくのだろうと期待がどんどん膨らんでいくでしょう。

そして、自分の好きな種を選ぶことで、植物に進んで関わろうという主体的に取り組む態度が育っていきます。また、数種類の植物のなかから自分で選んで育てることで、自分だけの発見が多く生まれ、「早く知らせたい」という感情が育ってくるのが期待できます。

どんな花が咲くのかな？
どんな芽が出るのかな？



大きい種だから、大きな花が咲くと思うよ。「大ちゃん」って名前にしよう。

こんな活動もおすすめです！
植物の成長した姿と種を結び付けるクイズ

活動のポイント2 日常の活動を継続し、小さな変化を記録させよう。

多様な植物を育てるので、植物によっていろいろな発見が生まれることが期待できます。自分だけの発見なので「観察したい」「教えたい」という意欲につながります。朝の会や帰りの会などで植物の様子を伝える時間を設定することも有効です。

また、写真と子供のコメントの掲示を続けていくことで、植物の変化を比較したり、自分や友達のがんばりに気付いたりすることができ、さらに新しい気付きにつながっていきます。

<活動の例>

○朝や休み時間に「お花のけんこうかんさつ」

○朝の会で「お花ニュースの時間」

前日までに植物の様子を穴埋めの発表カードに記録し、朝の会で発表。ニュースキャスターになりきって話すと楽しくできます。

○植物ごとに曜日を決めて、全員が発表できるようにする。

○シールの活用

子供たちが喜びそうなシールを用意して、「お花ニュース」の原稿に貼ってあげます。



昨日、僕の〇〇の花が咲きました。

発見シール



活動のポイント3 対象への気付きから自分自身への気付きへつなげよう。

発表や写真へのコメント、観察カードの内容に対して、教師が称賛したり自分と対象の関わりについて問い返したりすることで、子供たちは自分の思いを少しずつ書けるようになっていきます。記録には色を分けて（対象への気付きは赤、自分自身への気付きは青など）、花丸やアンダーライン、コメントなどで価値付けることで、「こんなことを書くといいんだな」と、自分の成長を表現する子供が出てくるのが期待できます。

あとでふり返ったときに、植物の成長の変化はもちろん、自分自身への気付きもどんどん多くなっていることに気付き、自分の成長を子供自身が感じ取れるようになり、自己有用感が育まれることが期待できます。

そんなことに気付けたの。すごいね！

どうしたらそうなったの？

それを見て、どんなふう思ったの？



チョウミたいな葉っぱが出てきたよ。



葉っぱを触ったらチクチクしたよ。

支柱を立てたら上まで伸びたよ。うれしいな。



毎日水をあげたから、きれいなお花がたくさん咲いたよ。

※学習活動の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症に関わる各自治体の対応方針を踏まえるなど、子供の安全の確保に向けて十分配慮する必要があります。

なつがやってきた

執筆：青森県十和田市立東小学校教諭 蛸澤麻美
 編集委員：前・文部科学省教科調査官 渋谷一典
 文部科学省教科調査官／愛知淑徳大学准教授 加藤 智
 青森県六ヶ所村教育委員会 学務課指導グループマネージャー 木村 智


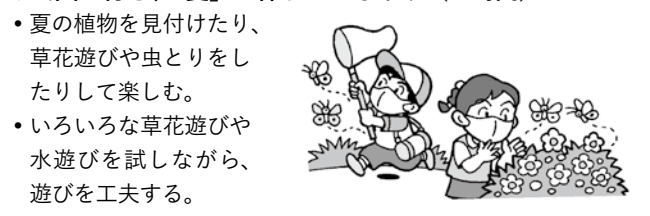

年間指導計画

- 4/5月 がっこうだいすきはるをさがそう
- 6/7月 きれいにさいてね
なつがやってきた
- 8/9月 いきものとなかよし
あきをさがそう
- 10/11月 あきのおもちゃをつくろう
むかしからつたわるあそびをたのしもう
- 12/1月 じぶんでできるよ
ふゆをたのしもう
- 2/3月 しん一年生に学校のことをつたえよう
もうすぐ二年生

期待する子供の姿

知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
夏の自然や草花、昆虫を観察したりそれらで遊んだりする活動を通して、夏の自然の様子や自然を利用したり遊ぶものを作ったりすることの楽しさや春との違いに気付く。	夏の自然や草花、昆虫を観察したりそれらで遊んだりする活動を通して、夏の特徴や他の季節との違いを見付けたり、遊びを工夫したりすることができる。	夏の自然や草花、昆虫を観察したりそれらで遊んだりする活動を通して、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとする。

単元の流れ（6時間）

学習の流れ	評価規準等
<p>○夏についてお話ししよう（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏について知っていることを出し合う。 校庭で自然遊びをし、見付けたものを発表する。 	<p>知 これまでの経験や身近な自然の様子から、春から夏へと季節が移り変わっていることに気付いている。</p> <p>思 季節の変化や特徴を確かめながら、身近な自然を楽しんでいる。</p>
<p>○公園に行き、「夏」と仲よしくなろう（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏の植物を見付けたり、草花遊びや虫とりをしたりして楽しむ。 いろいろな草花遊びや水遊びを試しながら、遊びを工夫する。 公園を利用する人や支えている人と関わる。 	<p>思 諸感覚を生かして、夏の自然に関わったり、遊びを楽しんだり、友達と遊び方を工夫したりしている。</p> <p>知 公園は、多くの人が利用していることやそれらを支えている人がいることに気付いている。</p>
<p>○「夏」と仲よしくなったこと、分かったこと、楽しかったことなどを発表しよう（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 校庭や公園での遊びを終えて、分かったこと、楽しかったことなどを発表する。 ふり返りを紹介し合う。 	<p>知 身近な自然は、いろいろな遊びに利用できることに気付いている。</p> <p>態 身近な夏の自然を取り入れて、自分の生活を楽しくしようとしている。</p>

※評価規準等の知＝知識・技能、思＝思考・判断・表現、態＝主体的に学習に取り組む態度の観点を示しています。

活動のポイント1 子供同士の関わりや意見交換の機会を意識しよう。

本単元では、身近な自然を観察したり、友達と関わりながら夏の遊びを楽しんだりする活動を通して、春から夏への変化や夏の特徴、季節によって生活の様子が変わること気付くことをねらっています。春に体験した遊びを行い、気付きを交流し合ったり、自分のお気に入りの場所（マイツリー、おすすめエリア）などを観察して、気付いたことを友達同士で交流し合ったりする活動を設定するとよいでしょう。

その際、友達よさに気付くように、教師が友達の変化についても意見交流するように働きかけていきましょう。そうすることで、子供たちは、自然の変化に気付きながらも、友達の変化や気付かなかったよさに気付くようになります。



活動のポイント2 公園を利用する人や支えている人との出会いを生かそう。

学区内の誰も遊んでいないただの空き地と、みんなが遊んでいる公園のなかの様子が比べられるように、映像などを用意し、何が違うのかを考えさせるとよいでしょう。その違いがなぜあるのかを考えることで、いろいろな人が公園を利用していること、安全に遊具や自然物を使って遊べるように公園を整備してくれる人がいることに気付くでしょう。これらの人との関わりを通して、子供たちは決まりやルールを守ることの大切さを理解したり、地域の人への感謝の気持ちをもったりすることができるようでしょう。

このような活動を発展させていくことで、子供たちは自分の周りにも、自分たちの生活を支えてくれる人がいることに気付くようになります。



評価のポイント 伝え合う活動から友達のよさを見付けよう。

すぐに友達よさを伝えることができない子も少なくありません。そこで、公園で遊んだ後に、公園で遊んでいるときの写真や動画などを見て、友達と関わってどんなことを思ったのかを伝え合う場を設けてみましょう。子供のコメントは、カードにして常時掲示し、付け加えられるようにしていくことも有効です。このような活動を繰り返すことで、日常的に友達よさに目を向けたり、友達に感謝の気持ちを伝えたりできるようになります。

〈カードの例〉

たのしかったよカード

〇〇さん
□□が いっしょに できて、たのしかったよ。

ありがとうカード

〇〇さん
こまっていたとき、こえを かけてくれて ありがとう。

すごいねカード

〇〇さん
虫の 名まえや 花の 名まえとか 知っていて、すごいね。

アスレチックパークにいこう！

器械・器具を使つての運動遊び 固定施設を使った運動遊び

執筆：東京都品川区立伊藤学園主幹教諭 黒澤有貴
編集委員：国立教育政策研究所教育課程調査官 塩見英樹
東京都品川区教育委員会統括指導主事 唐澤好彦

年間指導計画

- 4/5月 体つくりの運動遊び（体ほぐし）
表現リズム遊び（表現・リズム）
- 6/7月 器械・器具を使つての運動遊び（固定施設）
水遊び
- 8/9月 体つくりの運動遊び（多様な動き）
走・跳の運動遊び（走）
- 10/11月 器械・器具を使つての運動遊び（鉄棒）
器械・器具を使つての運動遊び（跳び箱）
- 12/1月 ゲーム（ボールゲーム）
器械・器具を使つての運動遊び（マット）
- 2/3月 走・跳の運動遊び（跳）
ゲーム（鬼遊び）

授業づくりのポイント

固定施設を使った運動遊びは、その行い方を知るとともに、ジャングルジムや雲梯、登り棒、肋木、平均台などで、いろいろな登り下りやぶら下がりをしたり、懸垂移行をしたり、渡り歩きや跳び下りをしたり、逆さの姿勢をとったりするなどして遊ぶ学習です。

子供が夢中になっているいろいろな運動遊びに取り組みながら、回転、支持、逆さの姿勢、ぶら下がり、振動、手足での移動などの基本的な動きができるようにします。

器械運動系の初めての学習であり、特に入門期の一年生の段階では、安全な遊び方を身に付けることが大切です。そうした素地のもと、子供が友達と一緒に遊んだり、自分の力に合った場を選んで遊んだりするなか、固定施設を使った動きを工夫しながら運動遊びを広げることができるようにするとともに、休み時間などに子供が自ら取り組み、運動の日常化にもつなげられるようにしていきます。

楽しく運動遊びをしよう 安全な遊び方を知り、いろいろな固定施設での運動遊びをしよう

運動遊びとの出会い

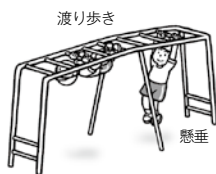
それぞれの場での楽しい遊び方を知り、安全な遊び方を確実に身に付けさせていきます。そのうえで、今もっている力で楽しめる易しい運動遊びから始め、それぞれの遊びの場で十分に遊び込む時間を確保できるようにします。

●ジャングルジム



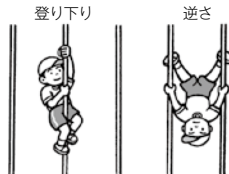
渡り歩き
登り下り
逆さ

●雲梯



渡り歩き
懸垂

●登り棒



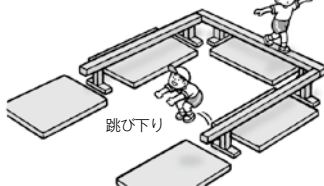
登り下り
逆さ

●肋木



登り下り
懸垂移行
腕立て移行

●平均台



渡り歩き
跳び下り

※肋木と平均台は、体育館にあることが多いため、「マットを使った運動遊び」の学習のなかで行うことも考えられます。

安全のPOINT

- 登り下りをする際には、手や足を使って必ず3点以上で体を支えるようにさせましょう。
- 雲梯や登り棒の下にマットを敷くなど、安全を確保できるようにしましょう。
- スピードを競うことは、落下や衝突につながることも考えられるのでやめましょう。
- 衝突の危険性があるので1本の登り棒を2人以上で同時に使用しないようにしましょう。
- 「親指をしっかりと握ること」を指導して、体をしっかりと支えるようにしましょう。
- 雨が降った後など、遊具が濡れている状態で使用すると手や足が滑る危険性があるので確認しましょう。



指導のPOINT（苦手な子供への配慮）

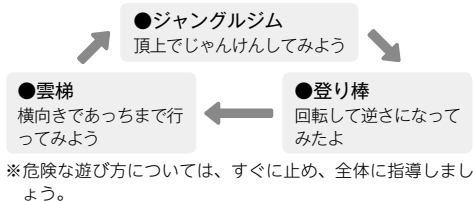
- 雲梯で体を揺らして移動することが苦手な子供には、教師が補助をしたり、少し斜めを向いた姿勢で片手ずつ動かして移動できるよう助言したりしてみましょう。
- 足が滑って登ることが苦手な子供には、タオルやハチマキなどを棒に巻いて、節を作って滑らないようにしましょう。

遊び込む時間の確保

今もっている力で安心して取り組める遊び方で、すべての場で十分に遊び込むことができます。また、いろいろな遊び方を増やせるように言葉がけをしていきます。



アスレチックパークで遊ぼう！
どんな楽しい遊び方があるかな。



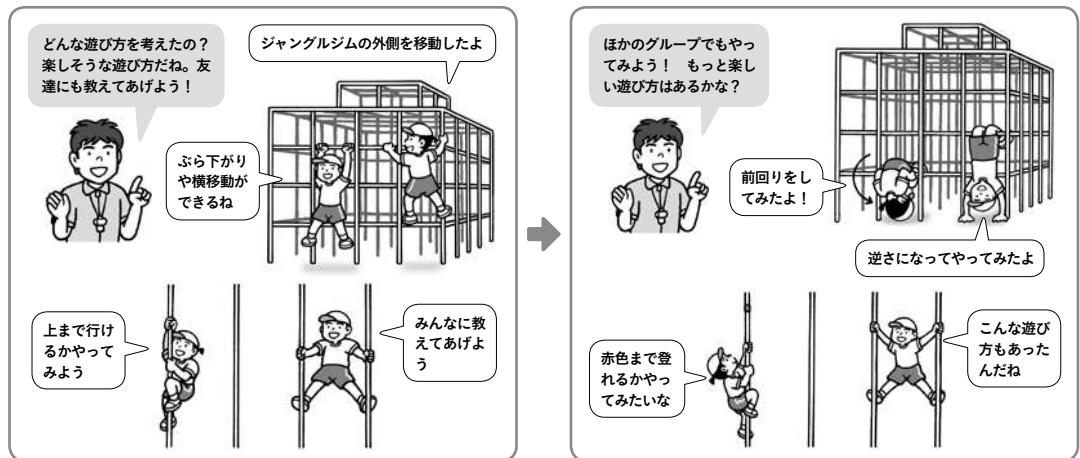
単元計画

	1	2	3	4	5
0分	集合、整列、あいさつ				
↓ 45分	○オリエンテーション ・学習内容を知る ・きまりを知る ・アスレチックパーク（遊具）の使い方を知る（安全面の確認） ○準備運動 ○それぞれの場で運動遊びに取り組み	○学習の流れを確認する ○アスレチックパーク（遊具）の使い方を確認する（安全面の徹底） ○それぞれの場で、運動遊びに取り組み、十分に遊び込む ※「楽しみながら取り組んでいる子供」「安全に取り組んでいる子供」「いろいろな遊び方をしている子供」を紹介して、学級に広がっていきます。		○学習の流れを確認する ○ローテーションですべての場を回り、自分やグループで考えた遊びや別のグループが考えた遊びなど、いろいろな遊び方で遊ぶ	
	・ふり返り ・整理運動 ・あいさつ				
	楽しく運動遊びをしよう			工夫してもっと楽しく運動遊びをしよう	

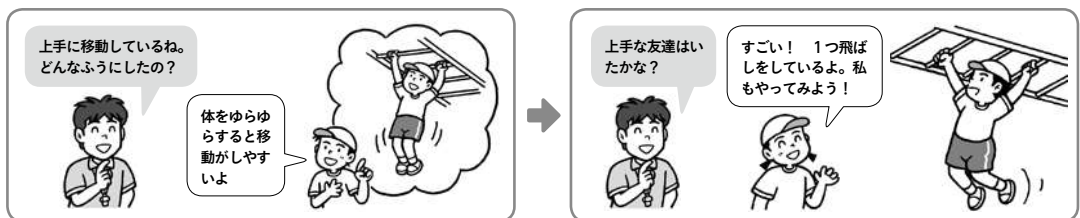
工夫してもっと楽しく運動遊びをしよう 遊び方を工夫して、もっと楽しく運動遊びをしよう

「アスレチックパークで工夫して、遊ぼう」というめあてをもち、子供が自分やグループで考えた楽しい遊び方を紹介し、遊び方を広げていくことができるようにします。また、教師が賞賛・価値付けすることで、友達のよい動きを見付け、遊び方を広げていきます。さらに、異なる場や遊び方を選んで遊んでいた友達と一緒に遊ぶことで、経験していない遊び方の楽しさに気付くことができるようにします。

遊び方の工夫・紹介



よい動きの賞賛・価値付け



- ※なお、授業を行う際には、地域の感染状況に応じて、以下の新型コロナウイルス感染症対策を講じることが考えられます。
- ・子供たちに授業前後の手洗いを徹底する（落下防止の観点からも、水気を含んだ状態のままでも学習に向かうことがないよう、特に授業前の手洗い後にハンカチ等で手を拭くようにする）。
 - ・子供同士が近接する運動遊びは活動時間の1/3程度とする。
 - ・活動中は不必要に大声を出さないようにする。 ・集合・整列時は子供同士の適切な間隔を確保する。 など

安全！楽しい！水遊び

水遊び

執筆：東京都品川区教育委員会指導主事 齊藤隆光
編集委員：国立教育政策研究所教育課程調査官 塩見英樹
東京都品川区教育委員会統括指導主事 唐澤好彦

年間指導計画

- 4/5月 体つくりの運動遊び（体ほぐし）
表現リズム遊び（表現・リズム）
- 6/7月 器械・器具を使つての運動遊び（固定施設）
水遊び
- 8/9月 体つくりの運動遊び（多様な動き）
走・跳の運動遊び（走）
- 10/11月 器械・器具を使つての運動遊び（鉄棒）
器械・器具を使つての運動遊び（跳び箱）
- 12/1月 ゲーム（ボールゲーム）
器械・器具を使つての運動遊び（マット）
- 2/3月 走・跳の運動遊び（跳）
ゲーム（鬼遊び）

授業づくりのポイント

水遊びは、「水の中を移動する運動遊び」と「もぐる・浮く運動遊び」で構成され、水につかって歩いたり走ったり、水にもぐったり浮いたりする運動遊びです。

経験の差が出たり、水に対する不安感を抱いたりする運動遊びであるため、誰もができる易しい水遊びでの水慣れを通して不安感を取り除き、水の心地よさを味わうことから始めます。易しい水遊びに少しずつ工夫を加え、楽しく

水遊びするなかで、水の中を移動すること、もぐる・浮くことなどの基本的な動きを身に付けられるようにします。また、動きのイメージやリズムなどを、分かりやすい言葉で子供たちに伝える工夫も大切です。

なお、水の事故は、生命に直結する大事故につながる恐れがあるため、水遊びの心得をはじめ、安全に関する事項を子供たちに徹底することが求められます。

楽しく運動遊びをしよう

- ・プールのきまりを守って、楽しく水遊びをしよう
- ・いろいろな水の中を移動する運動遊びを行い、水に慣れよう

運動遊びとの出会い

水につかって、水をかけ合ったりまねっこ遊びをしたりして遊ぶなかで、水中で体を動かす楽しさや心地よさを十分に味わえるようにしていきましょう。

水慣れ

水に対する不安感を取り除き、水の心地よさを味わえるようにします。

●水に入つての呼吸



●水かけっこ



●水中歩行・ジャンプ



●まねっこ遊び



※慣れてきたら音楽をかけ、リズムに合わせてながら水慣れを行うことも考えられます。

水の中を移動する運動遊び

まずは、水慣れで行った簡単な遊び方から始め、遊び方を工夫していくなかで、水中で体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにします。

●水かけっこ



●まねっこ遊び



ワニさんのお話に合わせて動いてみよう。じゃんけんして、勝った人の後ろに付きましよう

●ワニの散歩



●電車ごっこ



正面でもかけ合ってみよう。カニさんみたいにブクブクと大きな泡が出せるかな

水遊びと安全

指導の前に以下に示した事項などについて、確認し、安全に努めることが考えられます。

安全管理

1. 子供の健康管理
2. 注意・配慮を要する子供への対応
3. 監視体制・役割分担
4. 用具等の使用上の注意
5. 緊急時の対応について

安全指導

1. 天候の判断
2. 安全上の対策
3. 人員点呼
4. 準備運動
5. 入水時と休憩時の注意事項 など

施設・設備の安全

1. プール施設の安全管理
 2. 適切な水位設定
 3. プールの水温及び水質管理
- ※学年、学校全体で共有し、子供たちの安全を守りましよう。

バディシステムについて

人員点呼は事故防止の上でとても重要ですが、バディシステムは感染リスクに十分注意して運用する必要があります（密着しない・拳手のみとする・名簿での点呼の活用など）。



水遊びの学習における感染症対策

- ※学校プールについては、学校環境衛生基準に基づき、プール水の遊離残留塩素濃度が適切に管理されている場合においては、水中感染のリスクは低いとされています。水遊びの授業を行う際には、地域の感染状況に応じて、以下のような感染リスクへの対策を講じることが考えられます。
- ・活動中（着替えを含む）は不必要に大声を出さないようにする。 ・集合・整列時は子供同士の適切な間隔を確保する。
 - ・プールに一声の大人数が入らないようにする。 ・対面するなど近接する活動を行う場合は、特定の少人数で短時間で行う。
 - ・用具やタオル・ゴーグルなどの私物の共有を避ける。 ・更衣室が密集となる場合は、少人数で使用するなど工夫する。
 - ・見学者への感染対策および熱中症対策を講じる。 ・屋内プールにおいては、換気設備を適切に運転する。など

単元計画

水遊びの心得…準備運動や整理運動はしっかり行う、ていねいにシャワーを浴びる、プールサイドで走ったり跳ねたりしない、プールに飛び込まない、潜水をしない、友達とぶつからないように動くなどのこと。また、水遊びをする前には体(爪、耳、鼻、頭髪など)を清潔にしておくことも合わせて指導しましょう。

	1	2～5	6～10
0分	・集合、整列、あいさつ、人員点呼		
↓	1きまりの確認 ※水遊びの心得を守って安全に気を付けることを押さえる。 ・着替え・トイレ ・移動 ・プールサイド・水の中 ・タオルを置く場所 2準備運動・シャワー(顔洗い) 3水に入っの呼吸 4水中歩行・走行 5水かけっこ ・教師に全員でかける ・教師が子供にかける	1.学習の流れの確認 2.準備運動・シャワー 3.めあての確認	
	4水慣れ(水の中を移動する運動遊びが中心) ・水に入っの呼吸、水かけっこ、水中歩行、まねっこ遊びなど、子供たちが簡単にできる遊び方から始める	4水慣れ(もぐる・浮く運動遊びを加えて) ・状況に応じて、水中じゃんけんやにらめっこ、イルカジャンプ、バブリングやポピング、くらげ浮き、伏し浮き、大の字浮きなどを加える	
	5水かけっこ ・背中であけ合い ・正面であけ合い	5もぐる・浮く ・顔付け ・壁につかまり浮く ・2人で揃えてもぐる・浮く ・石拾い	5もぐる・浮く ・グループで揃ってもぐる・浮く ・輪くぐり ・くらげ浮き、伏し浮き、大の字浮き
	6電車ごっこ・まねっこ遊び ・ワニ、カエル、カニ、アヒルなど ・動物のまねをしながらの移動	6鬼遊び・リレー ・増やし鬼 ・折り返しリレー ※タッチではなく、水をかける	6グループ石拾い ・1人1回1個 ・輪を入れ、輪くぐりの動きを加えて
45分	・ふり返り ・整理運動 ・あいさつ		
	楽しく水遊びをしよう		工夫してもっと楽しく水遊びをしよう

工夫してもっと楽しく運動遊びをしよう

- ・いろいろなもぐる・浮く運動遊びを行い、基本的な動きを身に付けよう
- ・運動遊びの場や行い方を工夫して、もっと水遊びを楽しもう

水に慣れてきたら、沈もうとすると浮力が働き、体が浮くことを感じたり、息を吐くと逆に沈み込むことを体験したりすることで、水中での基本的な動きを身に付けることができるようになります。また、運動遊びの場や行い方を工夫するなかで、さらに水遊びを楽しむことができるようになります。

もぐる・浮く運動遊び

壁や補助具につかまって水に浮いて遊んだり、水にもぐって遊んだりするなかで、浮くことや沈むことを体験できるようにします。

●壁につかまって伏し浮き



●ポピング



●くらげ浮き



●水中じゃんけん



●補助具を使っの浮く遊び



●バブリング



●大の字浮き



●輪くぐり



遊びの広がり(場の工夫)

●電車ごっこ



●石拾い



遊びの広がり(行い方の工夫)

●鬼遊び



●リレー遊び



よい動きの賞賛・価値付け

上手にポピングができていね。どうやったの?

すごい! 10秒以上も安定して浮いているね



息を吐くときにバツと言ったら、水を飲まなかったよ

力を抜くと浮きやすいよ



指導のPOINT

- ・水に顔をつけることや水に対する恐怖心がある子供もいます。スモールステップで行い方を示したり、より易しい行い方を示したりなどの配慮が必要です。
- ・一方で、既に初歩的な泳ぎを身に付けている子供もいます。動きのよさを認め、ほかの子供に伝えたり、石拾いで拾う石の色の指定やもぐる輪の位置を深くしたりするなどの、個に応じた課題を提示します。